

第611回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 昭和通線（小戸之橋架替え）整備事業 宮崎市永楽町～城ヶ崎三丁目

宮崎市の北部と南部を結ぶ昭和通線は、起点の宮崎駅東一丁目から大淀川を渡河し、終点の大字田吉字赤江に至る総延長3,870m、代表幅員16mの幹線道路です。現在の小戸之橋は、昭和38年に建設され、建設してから約50年経過し、老朽化が著しく、また、片側の歩道で歩行者、自転車の安全が確保されていないことなどから、架替え事業が実施されています。平成25年11月より橋を通行止めにして旧橋の撤去に着手しており、平成33年3月に新橋の供用開始を目指しています。



2 宮崎港、みやざき臨海公園（平成13年度全建賞） 宮崎市新別府町前浜地先他

「宮崎港」は、九州の港の中でも海上距離で首都圏に最も近い港です。背後には人口40万人の宮崎市を控え、高速道路や空港と直結する南九州の交通の要衝にあります。平成2年に大阪とを結ぶフェリーが就航、その後、自動車搬送船やRORO船が就航し、南九州の物流拠点となっています。



また、「みやざき臨海公園」は、宮崎港北部に位置し、海洋性レクリエーション需要の増大に伴い「宮崎・日南海岸リゾート構想」の一環として整備された公園です。

南側はヨットやモーターボートを係留・保管・修理することができる宮崎唯一の本格マリーナを有する「サンマリーナ」。北側には、海水浴やマリンスポーツをはじめ、バスケットコートや、スポーツコートを備えた「サンビーチーツ葉」の二つに大きく分けられます。

その他、トイレ、シャワー、緑地広場、駐車場が整備され、夏の海水浴シーズンはもちろん、一年中ピクニックや水遊びが楽しめる施設となっています。

3 宮崎海岸侵食対策事業 宮崎市山崎町～佐土原町

宮崎県の海岸線は南北約400kmに及びますが、県都宮崎市から日向市にかけての約60kmでは、ほぼ直線の砂浜海岸が続きます。

このうち、宮崎港から一ツ瀬川の間位置する「宮崎海岸」は、宮崎層群と呼ばれる地層上に沖積層が広がった宮崎平野の延長上に位置する約10kmの砂浜海岸で、海岸と平野の間には高さ10～20m規模の砂丘がいくつか連なっています。

「宮崎海岸」の背後には、住宅地、一ツ葉有料道路、一ツ葉リゾート地区、農地等が広がっていますが、昭和50年代後半に海岸侵食問題が顕在化し、これらの資産・施設を守るために、護岸や離岸堤の整備による侵食対策が図られてきました。



平成20年度からは、侵食対策に多額の費用を要すること、また、総合的な侵食対策が必要であることから、国土交通省直轄事業（宮崎海岸直轄海岸保全施設整備事業）に着手しました。

その中で、行政・市民・専門家の連携（宮崎海岸トライアングル）の下、安全・安心を確保しつつ、環境・景観・利用にもできる限り配慮した計画を模索し、平成23年8月には「宮崎海岸保全の基本方針」を、同年12月には具体的な計画である「宮崎海岸の侵食対策」を策定しました。

そして、平成24年1月からは養浜工事に、同年10月からは突堤工事に、平成25年10月からは埋設護岸工事にそれぞれ着手しています。今後は、これらの工事の効果・影響を確認しながら、計画に基づいた段階的に整備を進めていくとともに、必要に応じて修正・改善を加えていきます（宮崎海岸ステップアップサイクル）。宮崎海岸は約50年間で平均約65m（最大94m）の砂浜が侵食され、一ツ葉有料道路目前まで浜崖が迫っており、越波被害や重要幹線道路の流失など、地域経済への影響は甚大となるおそれがあります。侵食に影響する沿岸漂砂が及ぶ一連の海岸線全体で効果的な対策を講じるため、直轄海岸保全施設整備事業により、関係機関と連携して、総合土砂管理の考え方のもと保全対策を実施しています。

4 ^{きよたけ} 清武総合運動公園整備事業

..... 宮崎市清武町

「宮崎市清武総合運動公園」は、市民のスポーツの振興と健康増進を図る為の本格的な運動公園として、さまざまなスポーツ施設を整備するとともに、市民の憩いの場となる自然景観を活かしたつばきの森、遊具施設を備えたふれあい広場、幼児から高齢者まで利用できるわくわく広場、多様化するニーズの中で日常的な遊び・散歩から、散歩・ジョギング等の軽運動、そして本格的なスポーツ活動までをサポートし、災害時においては、緊急避難場所としての機能も有する施設です。

現在、第二球場の整備を進めています。



5 宮崎西環状線松橋工区建設工事

..... 宮崎市大字瓜生野～大字跡江

「宮崎西環状線」は、宮崎市芳士の国道10号から同市中村の国道220号に至る主要地方道で、市街地西側の外環状道路を形成し、市内中心部の渋滞緩和や宮崎市周辺部から宮崎空港、宮崎ICなどの交通拠点へのアクセス向上を図る路線です。

当該整備区間の松橋工区は、宮崎西環状線の一部を構成し、大淀川を渡河する相生橋を含む延長約3.1kmの工区で、完成後は、主要地方道宮崎須木線との交差点（相生橋北詰）等、主要渋滞箇所の緩和が図られると期待されます。

相生橋は、延長412.3m、幅員22mの4径間連続波形鋼板ウェブPC箱桁橋で、平成21年度より工事着手し、平成26年度末に完成する予定です。

